

愛媛大学

【N070 愛媛大学】

	愛媛大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:500 第3年次:10） 大学院理工学研究科（M:240 D:23）
沿革	昭和14（1939）年 新居浜高等工業学校創立 昭和24（1949）年 新制愛媛大学工学部設置 昭和42（1967）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成4（1992）年 大学院工学研究科博士後期課程設置 平成8（1996）年 大学院工学研究科と大学院理学研究科を統合し、大学院理工学研究科設置
設置目的等	<p>愛媛大学工学部・大学院理工学研究科の母体である新居浜高等工業学校は、工鉦技術員の需要が激増する中、工鉦業界の要請に応え、上級技術員養成機関拡張を目的として昭和14年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、新居浜高等工業学校は、愛媛大学工学部として承継された。</p> <p>昭和42年に、急速な技術革新の進展に即応し、研究能力に富んだ高度技術者を養成することを目的に、大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成4年に、教育・研究の活性化に資するとともに、産業界における新技術の研究・開発において自立した高度の能力を持つ技術者を養成することを目的に、大学院工学研究科博士後期課程が設置された。</p> <p>平成8年に、科学技術の革新やそれに伴う社会の変化に対応できる基礎力と応用力を兼ね備えた高度技術者の養成を目的に、大学院工学研究科と大学院理学研究科を統合、大学院工学研究科を改称し、大学院理工学研究科が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>愛媛大学においては、四国及びアジアで活躍できる人材の養成及び国内外ネットワークの構築、四国の産業創生に責任を持つ教育・研究の展開、社会システム・環境、生命及び材料を中心とした先端的研究を目指して教育研究に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 博士前期課程においては、基礎科学から応用科学技術までの教育</p>

・研究を広く選択できる体制をとり、科学技術の革新や、それに伴う社会の変化に対応できる基礎力と応用力を兼ね備えた材料科学などの高度な技術者等の育成の役割を果たすとともに、博士後期課程においては、独創性、課題探究力、課題解決力を備え、広く学問分野を俯瞰する視野を持ち国際舞台で活躍できる高度な研究能力を有する先導的な人材の育成の役割を果たす。

- 産業界からの要請によるICTスペシャリスト育成コース、文理融合型社会デザインコース、専攻横断的な教育形態の先端科学特別コースなど特色ある教育を進めてきた実績を生かし、地域産業の発展に中心となる人材及び我が国のみならず世界で活躍できるグローバル人材を育成する学部・大学院教育を目指した教育改革を精力的に推進する。
- 環境影響評価及び複合材料をはじめとする工学の諸分野に関する研究を、世界レベルの学内研究センター及び医学部等と連携の下、推進し、得られた成果を世界に発信するとともに、炭素繊維高度利用などの地域の諸課題に関連する研究テーマに取り組むことにより地域社会の発展に寄与する。
- 産学連携の窓口である社会連携推進機構を中心に、愛媛県内及び周辺企業への技術協力、県及び県内市町への各種委員会への参画、アジア人財資金構想高度グローバル人材育成プログラム及び行政・経済界を巻き込んだ国際ネットワークによる地元企業の海外進出支援並びに防災情報研究センターによる地域防災対策支援など、これまでの実績を生かし、持続的な地域産業の振興、安全・安心な地域社会創生を中核的な立場で牽引する。
- 船舶工学特別コースをはじめとする大学院への社会人受け入れ促進、高度溶接技術や新素材応用に関する講習会等の積極的展開などを通じ、地域産業界の高度化・活性化に資する。
- 世界展開力強化事業等各種プログラムによる学生の海外派遣促進、英語による授業実施及びアジア諸国からの優秀な留学生の戦略的受入れの拡大などによるキャンパスの国際化並びにアジアネットワークの構築などを強力的に推進する。